

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
現代の国語	国語	通信制	1	1	2
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。				
教科書	『標準 現代の国語』（第一学習社）				
スクーリング	全10回（1学期のみ開講）		要出席（3回以上）		
レポート	全6回		すべて提出		
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル小論文」全7講義		【目標時数】100分以上の視聴		
考査	1学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもって言葉を効果的に使おうとしている。			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	様々な文章に触れることで、多様な考え方を身に付けるとともに、自分の考えを文章で表現できるようになることを目的としている。 そのため、①筆者の主張 ②論理展開 ③表現技法 を中心に理解していく必要がある。				
その他	現代の国語はすべての教科の根本になるため、丁寧な学習を心がけること。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	第1部① ◇世界を広げる 「なぜ本を読むのか」	筆者の考える読書の効用について、文章構成とともに理解し、自分に照らし合わせて考えを深める。	10～15		No.1 5月 7日
	2	言語活動	①話し言葉と書き言葉の特徴 ②相手、目的、場面に応じた言葉遣い ③相手により伝わりやすい表現方法を理解する	124～127	【第1講】1～5 【第2講】1～5	
	3	第2部① ◇言葉が開く世界 「言葉遣いとアイデンティティ」	人間関係を調整する「言葉」と「言葉遣い」の役割について、具体的事例とともに理解を深める。	24～31		No.2 5月 27日
	4	言語活動	①表記・表現の基本ルール ②接続表現の種類や用法 ③比喩などの表現技法を理解する	156～161	【第3講】1～5 【第4講】1～5	
	5	第3部① ◇人間と文化 「水の東西」	東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述方法を把握する。	44～50		No.3 6月 10日
	6	言語活動	①論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性 ②説得力を意識した表現のしかたについて理解する	130～133	【第5講】1～5 【第6講】1～5	
	7	第4部① ◇生活の中の表現 「『弱いロボット』の誕生」	「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。	70～78		No.4 6月 24日
	8	言語活動	意見文とはどういうものかを理解し、自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。	178～180	【第7講】1～5	
	9	第5部① ◇社会と人間 「イースター島になぜ森がないのか」	イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。	88～97		No.5 7月 1日
	10	第6部① ◇論理分析 「『間』の感覚」	対比、類比を通して、日本文化および日本人の行動様式の特徴を明らかにする。	112～115		No.6 7月 8日

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>言語文化</b>	国語	通信制	2	1	2
学習の目標	言葉によって物事を理解・把握する方法を学び、言語活動を通して、他者の思考を適切に把握する資質・能力とともに自己の思考を効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
教科書	『標準 言語文化』（第一学習社）				
スクーリング	全10回（2学期のみ開講）	要出席（3回以上）			
レポート	全6回	すべて提出			
メディア視聴	スタディサプリ「[新版]高1・高2 古文<文法篇>」全19講義 「[新版]高1・高2・高3 漢文」全11講義	【目標時数】100分以上の視聴			
考查	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力を涵養し、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、生涯にわたって読書に親しんで自己を向上させようとするとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	文法事項や単語といった基礎事項を理解することだけでなく、文章を読解するための方法や、自分の思考を表現するための方法を身につけることを目指す。				
その他	言語文化は、3年次に受講する古典探究の基礎となる。丁寧に学習を進め、まずは基礎事項の習得に努めること。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
2 学期	1	日本文学編-古文 古文入門 『宇治拾遺物語』『児のそら寝』	・古文の読解 ・歴史的仮名遣い ・動詞の活用	122-127 130-132	[新版]高1・高2 古文(文法編) 第1講-第3講	No.1 月 日
	2	日本文学編-古文 古文に親しむ 『竹取物語』『なよ竹のかぐや姫』	・古文の現代語訳/読解 ・形容詞/形容動詞の活用	134-137 140-141		
	3	日本文学編-近現代 小説を読む(三) 「夢十夜」	・小説の読解/鑑賞 ・表現技法の把握 ・表現内容の理解	90-93 98-99		No.2 月 日
	4	日本文学編-近現代 詩の楽しみ 「二十億光年の孤独」	・詩の読解/鑑賞 ・表現技法の把握 ・表現内容の理解	46-48		No.3 月 日
	5	日本文学編-古文 歌物語を読む 『伊勢物語』『東下り』	・古文の現代語訳/読解 ・助動詞の学習 ・和歌の学習	154-157 162-165	[新版]高1・高2 古文(文法編) 第4講-第12講	No.4 月 日
	6	日本文学編-古文 軍記物語を読む 『平家物語』『宇治川の先陣』	・古文の現代語訳/読解 ・助動詞の学習 ・和漢混交文の学習	168-173		
	7	日本文学編-古文 和歌と俳諧 「万葉・古今・新古今」	・助動詞の学習 ・和歌の鑑賞	186-193		
	8	日本文学編-近現代 短歌と俳句 「清水へ」	・短歌の鑑賞 ・和歌の学習後に短歌を学び、文化的な連続性を学ぶ。	80-83		No.5 月 日
	9	漢文学編 漢文入門 訓読に親しむ(一)～(三)	・漢文学習の意義の把握 ・漢文訓読法 ・漢文書き下し法の学習 ・再読文字の学習	206-214	[新版]高1・ 高2・高3漢文 第1講- 第2講PART1	No.6 月 日
	10	漢文学編 漢詩の鑑賞 唐詩の世界	・漢詩の形式の学習 ・漢詩の鑑賞	226-231 234-235	[新版]高1・ 高2・高3漢文 第7講PART2	

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>地理総合</b>	地歴	通信制	1	1	2
学習の目標	世界・日本の地理的事象について、多面的・多角的な見方・考え方で社会を捉えるとともに、解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。				
教科書	『高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる』（第一学習社）				
スクーリング	全10回（1学期のみ開講）		要出席（3回以上）		
レポート	全6回		すべて提出		
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル地理総合」全64講義		【目標時数】100分以上の視聴		
考査	1学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の生活文化の多様性や、防災、地球的課題への取組などを理解できている。</li> <li>地図や地理情報システムなどを用いて、情報を適切に調べる技能を身に付けている。</li> </ul>			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的事象の特色や相互の関連を、場所や自然環境、地域などに着目して多面的・多角的に考察できている。</li> <li>課題の解決に向けて構想する力や、考察をもとに議論したりすることができている。</li> </ul>			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的課題を主体的に追究、解決しようとする力を身に付けられている。</li> <li>考察や深い理解を通して、日本国民としての自覚や国土への愛情、多文化共生の大切さについて養うことができている。</li> </ul>			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	世界や日本の地理的事象の学びを通して、現代の世界の様子と地理的諸課題を理解することを目的としている。学習に際して「基礎的な地理用語の理解」「世界・日本の地理的諸課題」「課題解決のためにできること」などを意識するとよい。また、新聞やWEBニュースなどで国内外の諸問題についても理解を深めるとよい。				
その他	地理総合は、2年次以降の科目（日本史探究、世界史探究、政治経済）とも関わりが深いため、丁寧な学習を心がけること。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	1-1.1地球上の位置と時差	○緯度と経度、季節変化 ○世界の時差	6～11	【第1講】1	No. 1 4月24日
	2	1-1.2地図とGISの役割	○地球儀と地図の種類 ○地形図と主題図 ○地理情報システム (GIS)	12～25	【第1講】2～4	
	3	1-2国家の結びつきとグローバル化	○国家の領域と国境 ○世界の結びつき (交通・情報・貿易) ○多極化する世界 (国際機構・協定)	26～41	【第2講】1～4	No.2 5月1日
	4	2-1.1人々の生活と文化①	○気候区分とその分布 ○気候と人々の暮らし (衣・食・住)	42～79	【第4講】2～3 【第5講】1～4	No. 3 5月11日
	5	2-1.2人々の生活と文化②	○人々の暮らし (産業・宗教・文化)	80～109	【第4講】4 【第6講】1～4	No. 4 6月5日
	6	2-2.1人々の尊厳と平等	○持続可能な開発目標 (SDGs) ○地球的諸課題 (貧困・人口・食料・水・健康福祉・教育・ジェンダー)	110～129	【第10講】1～4 【第12講】1～4	
	7	2-2.2自然環境問題と地球	○資源・エネルギー問題、都市・居住問題 ○地球環境問題 (陸地・海洋)	130～151	【第11講】1～4 【第13講】1～4	No. 5 6月26日
	8	2-2.3平和で公正な社会に向けて	○民族問題・民族紛争 ○国際協力とパートナーシップ	152～163	【第7講】4 【第9講】1～4	
	9	3-1.1自然環境と災害	○プレートテクトニクス (世界・日本) ○地震の発生とその影響 ○火山活動の恩恵と影響	182～197	【第14講】1～3	No. 6 7月8日
	10	3-1.2日本の自然環境と防災	○日本の自然環境 (気候・山地・海岸) ○気象災害と防災	198～211	【第14講】4 【第15講】1～3	

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>歴史総合</b>	地歴	通信制	2	1	2
学習の目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する資質を養う。				
教科書	『高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来』（第一学習社）				
スクーリング	全10回（2学期のみ開講）	要出席（3回以上）			
レポート	全6回	すべて提出			
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル歴史総合」全64講義	【目標時数】100分以上の視聴			
考査	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードから基本的な歴史用語を答えられる。また歴史用語を簡潔に説明できる。</li> <li>世界全体の歴史の流れの中で日本の歴史事実を捉えることができる。</li> </ul>			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な歴史用語を組み合わせて、歴史事実の因果関係を理解できる。</li> <li>史料やデータを読み取り、時代の潮流の中で歴史事実を考察できる。</li> </ul>			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>能動的に知識を学びとり、他者へ発信する力がある。</li> <li>世界各地で起こっている諸問題の原因を理解し、その克服の手段を論じることができる。</li> </ul>			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	近現代の世界の歴史の学びを通して、今日の国際社会の成り立ちと現代的課題を理解することを目的としている。その際、①歴史用語の理解、②歴史の因果関係、③現代の諸問題とのつながり、の3点を意識しながら学習を進めていく。				
その他	歴史総合は、2年次以降の探究科目（日本史探究、世界史探究）の基礎となるため、丁寧な学習を心がけること。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
2 学期	1	01 歴史の扉 歴史と私たち	○歴史と私たち ○歴史の特質と資料	18～23	【第1講】1～4	No.1 月 日
		02 近代化と私たち 18世紀のアジアの繁栄	○18世紀東アジアの政治と国際秩序 ○18世紀東アジアの経済と社会	24～33		
	2	工業化の進展と国民国家の建設	○国際商業の展開／産業革命 ○アメリカ独立革命／フランス革命 ○ウィーン体制の成立と崩壊	34～53	【第2講】1～4 【第4講】1～4	
	3	結びつく世界と日本の開国	○ヨーロッパのアジア進出／日本の開国 ○東アジア情勢と改革／明治維新 ○日本の外交と憲法制定	54～77	【第3講】1～4 【第5講】1～2	No.2 月 日
	4	帝国主義とアジア諸国の変容	○帝国主義諸国の世界分割 ○日清戦争／日露戦争 ○日本の工業化と国民統合	78～97	【第5講】3～4 【第6講】1～4	No.3 月 日
	5	03 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第一次世界大戦と大衆社会	○第一次世界大戦／ソ連の成立 ○ヴェルサイユ＝ワシントン体制 ○アジアの民族運動／アメリカの繁栄	102～129	【第7講】1～4 【第8講】1～4 【第9講】1～4	No.4 月 日
	6	経済危機と第二次世界大戦	○世界恐慌／ファシズム・軍部の台頭 ○満州事変／第二次世界大戦の勃発 ○第二次世界大戦の終結	130～149	【第11講】1～4 【第12講】1	No.5 月 日
	7	第二次世界大戦後の世界と日本	○国際連合の成立と冷戦 ○占領下の日本 ○戦後の東アジア／講和後の日本	150～163	【第12講】2～4 【第13講】1	
	8	04 グローバル化と私たち 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	○アジア諸国の独立と第三世界の台頭 ○キューバ危機／ベトナム戦争 ○高度経済成長とアジア諸国	164～179	【第13講】2～4 【第14講】1	
	9	世界秩序の変容と日本	○中東戦争と石油危機 ○アジアの経済成長 ○冷戦終結／グローバル化の進展	180～195	【第14講】2～4 【第15講】1～2	No.6 月 日
10	現代諸課題の形成と展望	○現代諸課題の歴史的経緯をまとめる ○グローバル化とは何か ○持続可能な社会とはどのような社会か	196～199	【第15講】3～4		

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>数学 I</b>	数学	通信制	1	1	3
学習の目標	各単元についての概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。				
教科書	『新編 数学 I』（第一学習社）				
スクーリング	全10回（1学期のみ開講）	要出席（4回以上）			
レポート	全9回	すべて提出			
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル数学I」	【目標時数】150分以上の視聴			
考査	1学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準				おもな評価方法
知識・技能	① 各単元の基本的な概念・原理・法則などを理解しているか ② 問題発見・解決を自立的に遂行するために必要な基礎技能を有しているか				レポート / テスト
思考力・判断力 表現力	① 事象を論理的に考察し、判断する力を有しているか ② 数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を有しているか				レポート / テスト
主体的に学習 に取り組む態度	① 課題の提出状況 提出期限を守り、内容に不備がないか ② 授業へ取り組む姿勢など、意欲・関心・態度を総合的に評価				レポート / メディア視聴
学習のポイント	数学 I は高校数学の基本となる科目です。理系選択や数学での大学受験を考えている人は市販の参考書等を使って、自学自習をすすめることが必要です。				
その他	数学は、物事を論理的に考えていくことの練習になります。丁寧に学習してください。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	1章1節 式の展開と因数分解	○整式の加法・減法、乗法 ○因数分解 ○式の展開・因数分解の工夫	4～19	【第01講】1～4 【第02講】1～4	No.1 4月26日
	2	1章2節 実数	○実数 ○根号を含む式の計算	22～29	【第03講】1～3	No.2 5月6日
	3	1章3節 1次不等式	○1次不等式の解法 ○連立不等式の解法	31～40	【第04講】1～4	No.3 5月17日
	4	2章1節 2次関数とそのグラフ	○関数 ○ $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ ○ $y=ax^2+bx+c$ のグラフ	44～57	【第07講】1～6	No.4 5月31日
	5	2章1節 2次関数の最大・最小、決定	○2次関数の最大・最小 ○2次関数の決定	58～65	【第08講】1～3	
	6	2章2節 2次方程式・2次不等式	○2次方程式の解、実数解の個数 ○グラフとx軸の共通点 ○2次不等式	68～81	【第09講】1～4 【第10講】1～4	No.5 6月7日
	7	3章1節 三角比	○三角比、三角比の利用 ○相互関係 ○三角比の拡張	84～101	【第11講】1～5 【第12講】1～4	No.6 6月14日
	8	3章2節 図形の計量	○正弦定理、余弦定理 ○三角形の面積 ○正弦定理と余弦定理の利用	102～110	【第13講】1～4 【第14講】1～4	No.7 6月21日
	9	4章1節 集合と論理	○集合 ○命題 ○証明法	114～126	【第05講】1～4 【第06講】1～2	No.8 6月28日
	10	5章1節 データの分析	○データの整理、代表値 ○四分位数、外れ値 ○分散、標準偏差、相関、仮説検定	130～145	【第15講】1～6	No.9 7月5日

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>数学A</b>	数学	通信制	2	1	2
学習の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。				
教科書	『新編 数学A』（第一学習社）				
スクーリング	全10回（2学期のみ開講）	要出席（3回以上）			
レポート	全6回	すべて提出			
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル数学A」全41講義	【目標時数】100分以上の視聴			
考査	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することができる。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けることができる。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けることができる。			レポート / テスト	
学習のポイント	数学 I に比べると、公式は少なく、複雑な計算が必要となる場面は限られます。数学 A では、問われていることの内容を正確にとらえ、直観や論理に基づいて正解までの道筋を描くことに重きを置いて学習しましょう。				
その他	数学は、物事を論理的に考えていくことの練習になります。丁寧に学習してください。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
2 学 期	1	1章 場合の数 1節 数え上げの原則	1 集合 2 集合の要素の個数 3 数え上げの原則	4～17	【第1講】1～4	No.1 月 日
	2	2節 順列・組み合わせ	1 順列 2 重複順列 3 円順列	18～23	【第2講】1～4	No.2 月 日
	3		4 組み合わせ 5 組み合わせの利用	24～30	【第3講】1～4	
	4	2章 確率 1節 確率の基本性質といろいろな 確率	1 事象と確率 2 確率の基本性質 3 余事象の確率	31～41	【第4講】1～4	No.3 月 日
	5		4 独立試行の確率 5 反復試行の確率	42～45	【第5講】1～2	
	6		6 条件つき確率 7 期待値	46～52	【第6講】1～2	
	7	3章 図形の性質 1節 三角形の性質	1 三角形の比 2 三角形の外心 3 三角形の内心 4 三角形の重心	55～69	【第7講】1～3	No.4 月 日
	8	2節 円の性質	1 円周角の定理 2 円に内接する四角形 3 円と接線	70～75	【第8講】1～2	No.5 月 日
	9		4 円の接線と弦の作る角 5 方べきの定理 6 2つの円	76～85	【第8講】3～5	
	10	3節 空間図形	1 空間における直線・平面の位置関係	86～91	【第9講】1	No.6 月 日

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>物理基礎</b>	理科	通信制	1・2	1	2
学習の目標	物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
教科書	『高等学校 新物理基礎』（第一学習社）				
スクーリング	全20回（1・2学期開講）		要出席（9回以上）		
レポート	全6回		すべて提出		
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル物理基礎」		【目標時数】400分以上の視聴		
考査	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解できているか。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけているか。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈・法則性の導出などの探究の方法やそれらを発表する力を習得できたか。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が身についたか。			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	四則演算、分数・小数、方程式、三角比など一般的な数学の力が必要とされるため、数学の学習も丁寧に行うこと。				
その他					

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	ガイダンス、速度	等速直線運動、変位と速度、速度の合成、 相対速度	10～19	【第1講】1～3 【第9講】2	No. 1 5月 20日
	2	加速度	加速度、等加速度直線運動	20～29	【第1講】4・5	
	3	落体の運動	自由落下、鉛直投射、水平投射	30～37	【第1講】6・7	
	4	力のはたらき、つりあい	力、合成、分解、つりあい	40～51	【第2講】1・3 【第9講】1	No. 2 6月 24日
	5	運動の法則①	作用反作用、慣性	52～57	【第2講】2・4	
	6	運動の法則②	運動の法則、運動方程式	58～69	【第2講】4・5	
	7	摩擦を受ける運動	摩擦力	70・71	【第2講】6・7	
	8	液体や気体から受ける力	水圧、浮力、抵抗力	72・73	【第2講】8	
	9	仕事	仕事・仕事率・仕事の原理	76～79	【第3講】1	
	10	力学的エネルギー	位置・運動エネルギー、力学的エネルギー	80～85	【第3講】2～4	No. 3 9月 2日
11	力学的エネルギー保存	力学的エネルギー保存の法則	86～91	【第3講】5		
2 学期	12	温度と熱運動、熱と熱平衡、熱量の保存	温度、熱運動、熱容量、比熱、熱平衡、熱量の保存	98～103	【第4講】1・2	No. 4 9月 16日
	13	物質の三態と潜熱、熱と仕事、エネルギーの変換と保存	物質の三態、潜熱、熱力学第一法則、不可逆変化	104～109	【第4講】3・4	
	14	波と振動、波の表し方、横波と縦波	波、表し方、波のグラフ、横波・縦波	116～121	【第5講】1～4	No. 5 10月 14日
	15	波の重ねあわせ、定常波、波の反射	重ね合わせ、定常波、反射	122～129	【第5講】5～7	
	16	音の速さと3要素、波としての音の性質、弦の固有振動、気柱の固有振動	音、うなり、固有振動、気柱共鳴	132～143	【第6講】1～4	
	17	電荷、電流と電気抵抗、物質と抵抗率	帯電のしくみ、電気量保存の法則、電流、オームの法則、物質と抵抗率	150～155	【第7講】1～3	No. 6 11月 25日
	18	抵抗の接続、電力量と電力	抵抗の接続、電力量、電力	156～163	【第7講】3・4	
	19	磁場、モーターと発電機、交流の発生と利用、電磁波	磁場、モーター、交流、直流、電磁波	166～173	【第7講】5・6	
	20	エネルギーの利用	原子力、原子核	174～179	【第8講】1・2	

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>化学基礎</b>	理科	通信制	1・2	1	2
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高める。また、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
教科書	『高等学校 新化学基礎』（第一学習社）				
スクーリング	全20回（1・2学期開講）		要出席（9回以上）		
レポート	全6回		すべて提出		
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル物理基礎」		【目標時数】400分以上の視聴		
考査	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解できているか。科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能が身に付いているか。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	物質とその変化に関する現象から課題を見出し、見通しをもって実験・観察を行う力を身に付けているか。観察や実験の結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力が身に付いているか。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	学習に主体的に関わり、見通しをもって学習したり振り返ったりする態度が身に付いているか。			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	基礎となる物質名・化学式は正しく書いて覚えること。また、原子の構造や性質を周期表と関連させて理解し、自分の言葉で説明できるようにすること。特に計算を伴う分野では、できるようになるまで繰り返し教科書等の問題に取り組むこと。また、レポートの復習・間違い直しなどを必ず行うことで理解を確実にすること。				
その他					

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	混合物と純物質、 物質を構成する元素、元素の確認	混合物と純物質、元素、化合物と単体、 同素体、炎色反応、その他の元素の確認、	18、24～27	【第1講】	No. 1 4月27日
	2	物質の分離、物質の三態	混合物の分離・精製、再結晶、昇華法、 抽出、クロマトグラフィー物質の三態、 粒子の熱運動	19～23 30～31	【第2講】 【第3講】	
	3	原子のなりたち、同位体とその利用、 原子の電子配置、	原子の存在、原子の旺盛、同位体、 放射性同位体の利用、電子配置、 価電子	32～37	【第4講】 【第5講】	No. 2 5月25日
	4	原子の周期律と周期表、イオン	元素の周期律、元素の周期表、 イオンの存在、イオンの生成、 イオンの表し方、イオンへのなりやすさ	38～41 48～51	【第6講】 【第7講】	
	5	イオン結合、イオンからなる物質	イオン結合、イオンからなる物質の表し方、 イオン結晶の性質	52～55	【第8講】	No. 3 6月22日
	6	共有結合	分子、共有結合と分子の形成、 原子の電子式、単結合・二重結合・三重 結合、構造式、配位結合	56～59	【第9講】1・2	
	7	分子の極性、分子間にはたらく力、 分子からなる物質	電気陰性度と結合の極性、分子の極性、 分子の極性と物質の性質の関係、分子結 晶、無機物質と有機化合物、高分子化合 物	60～65	【第9講】3・4 【第10講】3	
	8	共有結合の結晶、 金属結合と金属結晶	共有結合の結晶、ダイヤモンドと黒鉛、 ケイ素と二酸化ケイ素、 金属結合、金属結晶	66～71	【第10講】1・2 【第11講】	
	9	原子量、分子量・式量	原子の相対質量、元素の原子量、 分子量、式量	84～87	【第12講】	No. 4 9月24日
	10	物質量と粒子の数、 物質量と質量、物質量と気体の体積	物質量、物質量と粒子の数の関係、 物質1molの質量、物質量と質量の関係、 物質量と気体の体積の関係	88～95	【第13講】	
2 学期	11	溶解と濃度	溶解、溶液の濃度	96～97	【第14講】	No. 5 10月26日
	12	化学反応式	化学変化、化学反応式、イオン反応式	98～101	【第15講】	
	13	化学反応式の量的関係	化学反応式の係数と量的関係、 化学反応式の係数と物質量の関係	102～107	【第16講】	
	14	酸と塩基、酸と塩基の強弱	酸、塩基、ブレンステッド・ローリーによる定 義、酸・塩基の価数、酸、塩基の強弱、 電離度	118～121	【第17講】	No. 6 11月30日
	15	水素イオン濃度とpH、 pHの測定、中和と塩	水の電離と水素イオン濃度、水素イオン指 数pH、水溶液の希釈、pH指示薬、中和、 塩の生成、塩の水溶液の性質	122～127	【第18講】 【第19講】	
	16	中和の量的関係、中和滴定、 中和滴定曲線	中和の量的関係、中和滴定、 中和滴定曲線、指示薬の選び方	128～135	【第20講】	
	17	酸化と還元、酸化数	酸化・還元と酸素、酸化・還元と水素、 酸化・還元と電子、酸化数、 酸化数の増減と酸化・還元	144～147	【第21講】1	
	18	酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤、酸化剤と還元剤の働きを 示す式、酸化還元反応式の作り方、 酸化還元反応の量的関係	148～151	【第21講】2 【第22講】	
	19	金属のイオン化傾向、金属の反応性	金属のイオン化傾向、金属のイオン化列、 金属の反応性	152～155	【第23講】	
	20	電池、電気分解	電池の原理、電池の中で起こる酸化還元 反応、電気分解、電気分解の利用	158～162	【第24講】	

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>生物基礎</b>	理科	通信制	1・2	1	2
学習の目標	生物に関する興味・関心を持ち、実験・観察や生命現象の基礎的な学力を身に付ける。				
使用教材	『高等学校 新生物基礎』（第一学習社）				
スクーリング	全20回（1・2学期開講）		要出席（9回以上）		
レポート	全6回		すべて提出		
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル生物基礎」全28講義		【目標時数】400分以上の視聴		
考查	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物というものの見方・内部構造やはたらきの流れが理解できる。</li> <li>・動物としての機能、植物の植生と特徴、両者のかかわりを生態系という一つのグループとして理解ができる。</li> </ul>			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	生物の共通性が特定の枠組みによって定められていること、生体活動が一定の規則に従って営まれていることを、順序だてて説明することができる。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	自身を含めた「生物」という物体に対して、摂食や呼吸などの何気ない活動一つ一つに大きな意味があることを積極的に見出し、医療や環境保護などの現代の活動に対する関心に繋げることができる。			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業前に前の時間の授業内容をおさらいしておく。</li> <li>②授業中に配布されたプリントには語句や説明のほか、図や重要なワードにはマーカーを引くなど、自分のノートを作っていく。</li> <li>③授業で「難しい」「わからない」と少しでも感じたところは授業後などに必ず担当教員に質問する。</li> </ul>				
その他	授業で配布するプリントは、教科書内容の補助として使うため、スクーリング時は教科書とプリントの両方を用いて受講すること。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	第1章 生物の特徴 第1節 ①生物の多様性と共通性	○生物にみられる共通性 ○生物の共通性の由来 ○顕微鏡・マイクロメーターの使い方	12～15 18～23	第1講 PART1,4	No.1 5月25日
	2	②生物の共通性の由来 ③細胞構造の共通性	○原核細胞と真核細胞 ○起源の共有と進化	24～33	第1講 PART2,3	
	3	第2節 ①エネルギーと代謝 ②代謝とATP	○生命活動とエネルギー ○代謝 ○ATPの構造	34～37	第1講 PART5	
	4	③代謝と酵素 ④光合成と呼吸	○酵素 ○光合成と葉緑体 ○呼吸とミトコンドリア	38～45	第1講PART6	
	5	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 ①染色体・DNA・遺伝子 ②DNAの構造	○形質と遺伝子 ○染色体・DNAと遺伝子 ○DNAの構造	48～51	第2講 PART1	No.2 6月15日
	6	TOPIC	○DNAの研究史	52～53		
	7	③DNAの複製 ④DNAの分配	○DNAの複製のしくみ ○細胞周期	54～57	第2講 PART2	
	8	第2節 ①タンパク質の構造とはたらき ②遺伝子の発現とタンパク質合成(1)	○タンパク質とアミノ酸 ○遺伝情報の流れ ○タンパク質合成のしくみ	60～63	第2講 PART4,5	No.3 7月13日
	9	③遺伝子の発現とタンパク質合成(2)	○遺伝暗号	64～65	第2講 PART4,5	
	10	④細胞と遺伝子のはたらき くらしと生物学	○細胞の分化と遺伝情報 ○細胞を応用した技術	66～71	第2講 PART6	
2 学期	11	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 ①恒常性と情報の伝達 ②神経系	○体の調節 ○体内環境の調節と脳のはたらき	76～79	第3講 PART1	No.4 9月7日
	12	③自律神経系のはたらき ④ホルモンのはたらき	○自律神経系のはたらきと分布 ○ホルモンのはたらき	80～83	第3講 PART2,3	
	13	⑤血糖濃度の調節 ⑥体温の調節 ⑦体の調節と血液のはたらき	○血糖濃度の維持とホルモン ○体温調節のしくみ ○血液とからだの調節	84～91	第3講 PART4～6	
	14	第2節 ①病原体からからだを守るしくみ ②自然免疫	○物理的・化学的な防御 ○免疫に関係する細胞	96～101	第4講 PART1	No.5 10月5日
	15	③獲得免疫のしくみ ④獲得免疫の特徴 ⑤免疫と疾病 ⑥免疫と医療	○獲得免疫のしくみ ○獲得免疫が病原体のみに反応を起こすしくみ ○アレルギー ○免疫を利用した医療	102～111	第4講 PART2,3	
	16	第4章 第1節 ①様々な植生 ②植物と環境 ③植生の遷移と環境 ④植生の破壊と遷移	○植生 ○植物と光の強さ ○遷移のしくみ ○様々な遷移	116～125	第5講 PART1,2	
	17	⑤遷移とバイオーム	○バイオーム ○世界のバイオーム	126～133	第5講 PART3	No.6 11月24日
	18	⑥日本のバイオームと気候 第2節 ①生態系	○日本のバイオーム ○生態系	134～139 144～147	第5講 PART4 第6講	
	19	②生物どうしの関係 ③生物どうしの関係と種の多様性 ④生態系のバランスとかく乱	○栄養段階 ○キーストーン種 ○かく乱	148～155	第6講 PART2	
	20	⑤人間活動による生物の持ち込み ⑥生息地の破壊 ⑦生息地の分断化 ⑧生態系の保全とその意義	○生物の絶滅 ○環境破壊 ○私たちにできること	156～165	第6講 PART3	

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>英語コミュニケーション I</b>	英語	通信制	1・2	1	3
学習の目標	国際社会で生きる力を養うために、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていけるよう、英語の「聞く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」「読む」「書く」の5技能の取得を目指し、異文化理解や互いを尊重する態度を育成する。また、英語コミュニケーション能力（5技能）の伸長を通して、英語検定3級以上の取得を目指す。				
教科書	『Vivid English Communication I』（第一学習社）				
スクーリング	全20回（1・2学期開講）	要出席（14回以上）			
レポート	全9回	すべて提出			
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル英語」全184講義 スタディサプリ「高1・高2・高3英語超入門」全2講義	【目標時数】600分以上の視聴			
考査	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	英文を理解するうえで必要な単語力・文法力が身についているかを確認し、評価する。 概ね80%達成でA評価とする。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	次の2点について、概ね80%達成でA評価とする。1) 問いに対して、知識を組み合わせ思考できるか。2) 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	以下の3点について、概ね80%達成でA評価とする。 ・能動的に知識を学びとり、他者へ発信する力がある。 ・自分の考えを相手に正しく伝えることに意欲的に取り組んでいるか ・相手の考えに耳を傾け、理解しようとするに意欲的に取り組んでいるか			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	①英文を英語の語順のまま理解することを目指して、教科書等にある二次元コードから取得できる音声データを活用し、リスニングに力を入れること。②英文を語彙・文法・内容の面からよりよく理解し、状況に応じた表現を覚え、様々な方法による音読練習により英文を身体に馴染ませ、英語による発信につなげること。				
その他					

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	Lesson1 Share Your World Part1,2	SNSについて	7~11	【第4講】1,4,5	No.1 4月 27日
	2	Lesson1 Share Your World Part3	SNSについて 日本語と英語の語順の違い	12~20	【第6講】1,2	
	3	Lesson2 I Was Drinking Chocolate! Part1,2	チョコレートの歴史について	21~25	【第4講】2 【第9講】1	No.2 5月 25日
	4	Lesson2 I Was Drinking Chocolate! Part3	チョコレートの歴史について 英語の音の特徴①	26~34	【第12講】1	
	5	Lesson3 Inspiration on the Ice Part1,2	羽生選手について	35~41	【第3講】2 【第5講】1	No.3 6月 8日
	6	Lesson3 Inspiration on the Ice Part3	羽生選手について 英語の音の特徴②	42~48	【第8講】1	
	7	Lesson4 Esports' Time Has Arrived Part1,2	eスポーツについて	49~55	【第15講】1,2	No.4 6月 22日
	8	Lesson4 Esports' Time Has Arrived Part3	eスポーツについて 指示語が指す内容	56~62	【第3講】5	
	9	Lesson5 Mansai, Kyogen Performer Part1,2	狂言について	63~69	【第13講】1	No.5 7月 6日
	10	Lesson5 Mansai, Kyogen Performer Part3	狂言について、日本の文化や芸能について 言語の働き	70~76	【第9講】3	
2 学期	11	Lesson6 In This Corner of the World Part1,2	「この世界の片隅に」について	77~83	【第5講】6 【第18講】2	No.6 9月 7日
	12	Lesson6 In This Corner of the World Part3,4	「この世界の片隅に」について	84~87	【第18講】2 【第3講】2	
	13	Lesson7 Should Stores Stay Open for 24 Hours? Part1,2	24時間営業店舗について	95~99	【第3講】3 【第8講】2	No.7 9月 24日
	14	Lesson7 Should Stores Stay Open for 24 Hours? Part3,4	24時間営業店舗について	100~103	【第19講】2 【第5講】4	
	15	Lesson8 Our Future with Artificial Intelligence Part1,2	AIについて	111~117	【第26講】1 【第14講】1	No.8 10月 13日
	16	Lesson8 Our Future with Artificial Intelligence Part3,4	AIについて	118~121	【第18講】5	
	17	Lesson9 Stop Microplastic Pollution! Part1,2	プラスチック汚染について	127~131	【第3講】5	No.9 10月 26日
	18	Lesson9 Stop Microplastic Pollution! Part3,4	プラスチック汚染について	132~137	【第4講】3 【第21講】1	
	19	Optional Lesson A Retrieved Reformation Part1,2,3	ストーリー	143~149	英語超入門 【第1講】	
	20	Optional Lesson A Retrieved Reformation Part4,5	ストーリー	150~153	英語超入門 【第2講】	

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>論理・表現 I</b>	英語	通信制	1・2	1	2
学習の目標	国際社会で生きる力を養うために、世界の一端と協調し、国際交流などを積極的に行っていけるよう、英語の「聞く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」「読む」「書く」の5技能の習得を目指し、異文化理解や互いを尊重する態度を育成する。また、論理的に自分の意見を述べることを目標とし、英語検定3級取得を目指す。				
教科書	『NEW FAVORITE English Logic and Expression I』（東京書籍）				
スクーリング	全20回（1・2学期開講）	要出席（9回以上）			
レポート	全6回	すべて提出			
メディア視聴	スタディサプリ「ベーシックレベル英語」全184講義	【目標時数】400分以上の視聴			
考査	2学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	英作文に必要な英文法や表現、語彙を理解し、性格に使う力。 概ね80%達成でA評価とする。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	与えられた課題に応じて論理的に自分の意見をまとめ、適切に表現できる力。 概ね80%達成でA評価とする。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	継続的かつ計画的に課題提出・自学自習に取り組む姿勢。 フィードバックを活用して、学びを深める態度。 概ね80%達成でA評価とする。			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	①長い文を使う必要はありません。短くても「理由」が伝わればOKです。 「I think ~ because ~ .」「I agree because ~ .」といった型を使いこなしましょう。 ②間違えた英文、指摘された英文は「できなかった」のではなく、「ここを直せば良くなる」というヒントです。 間違いは「次のヒント」となります。少しずつでも続けていくことで、表現は必ず伸びます。				
その他					

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日	
1 学期	1	Unit1 Lesson 1 初めての食事	<input type="checkbox"/> 褒める <input type="checkbox"/> 勧める <input type="checkbox"/> 断る	14～19	【第1講】1,3	No.1 4月 27日	
	2	Unit1 Lesson 2 道に迷う	<input type="checkbox"/> 提案する <input type="checkbox"/> 依頼する <input type="checkbox"/> 説明する	20～25	【第1講】2 【第6講】1,2		
	3	Unit1 Lesson 3 人物紹介	<input type="checkbox"/> 紹介する <input type="checkbox"/> 注意を引く	26～31	【第4講】4 【第12講】1		
	4	Unit1 Lesson 4 体調が悪い	<input type="checkbox"/> 体調を伝える <input type="checkbox"/> 体調を訊ねる <input type="checkbox"/> 指示・アドバイスをする	32～37	【第3講】2 【第21講】1	No.2 6月 1日	
	5	Unit1 Lesson 5 買い物	<input type="checkbox"/> 描写する <input type="checkbox"/> 相づちを打つ	38～43	【第8講】1		
	6	Unit1 Lesson 6 行ってみたい場所	<input type="checkbox"/> 希望を述べる <input type="checkbox"/> 理由を述べる	44～49	【第7講】3		
	7	Unit1 Lesson 7 イベントに誘われる	<input type="checkbox"/> 誘う <input type="checkbox"/> 誘いを受ける <input type="checkbox"/> 誘いを断る	50～55	【第6講】4	No.3 6月 29日	
	8	Unit1 Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	<input type="checkbox"/> 状況を説明する <input type="checkbox"/> 申し出る <input type="checkbox"/> 助言・提案する <input type="checkbox"/> 感謝する	56～61	【第20講】2 【第21講】2		
	9	Unit1 Lesson 9 お気に入りを紹介	<input type="checkbox"/> 要約し、紹介する <input type="checkbox"/> 感想や批評を述べる	62～67	【第18講】1		
	10	Unit1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻	<input type="checkbox"/> 謝る <input type="checkbox"/> 許す <input type="checkbox"/> 励ます	68～73	【第13講】1,3	No.4 9月 7日	
2 学期	11	Unit2 Lesson 1 1 家庭でのディスカッション	<input type="checkbox"/> 共感を述べる <input type="checkbox"/> 残念な気持ち述べる <input type="checkbox"/> 解決策を提案する	74～79	【第1講】6 【第4講】2		
	12	Unit2 Lesson 1 2 英字新聞に投稿	<input type="checkbox"/> 要望や主張を述べる <input type="checkbox"/> 理由を述べる	80～85	【第7講】1,2		
	13	Unit2 Lesson 1 クラスでディベート①	<input type="checkbox"/> 理由を述べる <input type="checkbox"/> 例を挙げる	88～93	【第29講】4		No.5 10月 13日
	14	Unit2 Lesson 2 クラスでディベート②	<input type="checkbox"/> 反駁する <input type="checkbox"/> 引用する	94～99	【第31講】1		
	15	Unit2 Lesson 3 経験談のスピーチ	<input type="checkbox"/> 描写する <input type="checkbox"/> 経験からアドバイスをする	100～105	【第5講】1,4		
	16	Unit2 Lesson 4 遊びやスポーツを紹介	<input type="checkbox"/> 順序立てて説明する <input type="checkbox"/> 聞き手の知識に合わせて説明する	106～111	【第9講】1		No.6 11月 24日
	17	Unit2 Lesson 5 日本をPR	<input type="checkbox"/> 事実と意見を区別して述べる <input type="checkbox"/> 文化や習慣を説明する	112～117	【第8講】2 【第29講】2		
	18	Unit2 Lesson 6 物事の両面を伝える	<input type="checkbox"/> 利点と欠点を述べる <input type="checkbox"/> 話題を発展させる <input type="checkbox"/> 話題を変える	118～123	【第9講】7 【第13講】1		
	19	Unit2 Lesson 7 読み手を納得させる	<input type="checkbox"/> 主張を説明する <input type="checkbox"/> 要約する	124～129	【第2講】6		
	20	Unit2 Lesson 8 読み手を説得する	<input type="checkbox"/> 引用する <input type="checkbox"/> 条件を出して意見を述べる <input type="checkbox"/> 説得する	130～135	【第31講】2		

科目名		教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
音楽Ⅰ		音楽	通信制	1・2	1	2
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。また、表現(歌唱・器楽・創作)、鑑賞の活動を偏りなく行い、表現及び鑑賞相互の関連を図る活動を行う。生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活を創造していく態度を養い豊かな情操を培う。					
教科書	『音楽Ⅰ Tutti+』(大修館書店)					
スクーリング	全20回(1・2学期開講)			要出席(9回以上)		
レポート	全6回			すべて提出		
使用ソフト	Flat for Education(Tutteo)					
成績評価						
評価の観点	評価規準				おもな評価方法	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現にするために必要な知識・技能を身につけられているか</li> <li>・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解できているか</li> </ul>				レポート / 授業での演奏・創作	
思考力・判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現に関わる知識や技能を生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現活動を創意工夫できているか</li> <li>・音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表現したいイメージと関わらせて理解できているか</li> </ul>				レポート / 授業での演奏・創作	
主体的に学習 に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽文化に親しんでいるか</li> <li>・他者との調和を意識して学習に取り組んでいるか</li> </ul>				レポート / 授業での演奏・創作	
学習のポイント	表現をする芸術科目であることを意識し、普段から様々な音楽に向き合って主体的に音楽表現に取り組んでください。					
その他	<p>楽器や備品を大切に扱うようにしてください。メディア視聴およびテストはありませんが、授業内で作品の提出などがありますので、計画的にレポート課題に取り組むこと。また、集中スクーリングとして「芸術鑑賞」を実施します。</p> <p>※のマークがついたギター、ピアノの回については、楽器の都合上ギターとピアノの実習が同時展開になる可能性があります。</p>					

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	ガイダンス	ガイダンス			No.1 5月18日
	2	校歌を知ろう/正しい発声を学ぼう	校歌/発声	12、13		
	3	日本歌曲を分析しよう	夏の思い出	18、19		
	4	日本歌曲について考えよう	この道	14、15		
	5	日本歌曲を鑑賞して比較、表現しよう	この道	14、15		
	6	※ギターについて学ぼう	コード奏	82、83		No.2 6月15日
	7	※ギターを演奏しよう	ストローク奏法	84		
	8	箏の奏法を学ぼう	箏	66、67		
	9	箏を演奏しよう	箏	66、67		No.3 7月6日
	10	日本の伝統音楽について学ぼう	勧進帳	100～104		
2 学期	11	ドイツ歌曲を歌おう	野ばら (シューベルト)	42～44		No.4 9月14日
	12	2つの「野ばら」を比較しよう	野ばら (ヴェルナー)	45		
	13	※ピアノについて学ぼう	ピアノの演奏	112、113		No.5 10月19日
	14	※ピアノを演奏しよう	ピアノの演奏	24、25		
	15	変奏曲を鑑賞しよう	変奏曲	122、123		
	16	変奏のやりかたを学ぼう	きらきら星変奏	92、93		No.6 11月24日
	17	Garage Bandの操作を学ぼう	創作			
	18	Garage Bandで実際に作曲しよう	創作			
	19	出来上がった作品を評価しあおう	創作/鑑賞			
	20	交響曲第9番を鑑賞しよう	交響曲第9番/An die Freude	124、125、33		

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>体育（1年次）</b>	保健体育	通信制	1・2	1	2（※）
学習の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技術を身につけられるようにする。				
教科書	『高等学校 改訂版 保健体育 Textbook』（第一学習社）				
スクーリング	全20回（1・2学期開講）	要出席（12回以上）			
レポート	全2回	すべて提出			
メディア視聴	なし				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	運動のルールや方法、安全・健康について理解しているか。 基本的な運動技能を身につけているか。			実技試験 レポート提出 授業に臨む姿勢	
思考力・判断力 表現力	自分の体力や課題に応じて、運動の方法や内容を工夫・選択できているか。 考えたことや工夫した内容を、言葉や記録などで伝えられるか。			考 実技試験 授業に臨む姿勢	
主体的に学習 に取り組む態度	自分から進んで学び、継続して取り組もうとする姿勢が見られるか。 意欲的にスクーリングに参加しているか。仲間と協力し、チームプレイ・ペア活動ができているか。			意 授業に臨む姿勢	
学習のポイント	集団行動を通して、クラスという集団の一員であることを意識して行動させる。 各種目、基礎練習から取り組み、知識や技能を身につけていく、実技テストで技能の習得を確認する。 できなかったことができるようになる達成感を味わう。				
その他	オリエンテーション時の体育に関する諸注意を順守する。 また、集中スクーリングを実施する。				

※1・2・3年次合計の履修単位数は7単位

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	レポートNo 締切日
1 学期	1	バドミントン	シャトルとラケットに慣れる、直上トス、ペアで打ち合い	No. 1 6月 12 日
	2	バドミントン	ハイクリア、ドライブ、ヘアピン	
	3	バドミントン	2人1組打ち合い、試合形式	
	4	バドミントン	シングルス・ダブルス試合	
	5	バドミントン	シングルス・ダブルス試合	
	6	バドミントン	実技テスト	
	7	器械体操	前転、後転、開脚前転、開脚後転	
	8	器械体操	伸膝後転、三点倒立	
	9	器械体操	側方倒立回転、連続技の練習	
	10	器械体操	実技テスト	
2 学期	11	テニス	ボールとラケットに慣れる、フォアハンドストローク	No. 2 10月 5日
	12	テニス	フォアハンドストローク、バックハンドストローク	
	13	テニス	2人1組打ち合い、試合形式	
	14	テニス	実技テスト	
	15	バスケットボール	ドリブル、パス、ゴール下シュート	
	16	バスケットボール	レイアップシュート、パス&シュート	
	17	バスケットボール	パス・シュート応用練習 ミニゲーム	
	18	バスケットボール	試合形式	
	19	バスケットボール	試合形式	
	20	バスケットボール	実技テスト	

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>保健（1年次）</b>	保健体育	通信制	1	1	1（※）
学習の目標	我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。				
教科書	『高等学校 改訂版 保健体育 Textbook』（第一学習社）				
スクーリング	全10回（1学期のみ開講）		要出席（2回以上）		
レポート	全3回		すべて提出		
考查	1学期末に1回実施（スクーリング・レポートの必要回数を満たすことが条件）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
知識・技能	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につける。			レポート / テスト	
思考力・判断力 表現力	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。			レポート / テスト	
主体的に学習 に取り組む態度	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。			レポート / メディア視聴	
学習のポイント	自分の考えで主体的に行動できるようにする。そのためには保健の授業を通して、現代の社会の中で起こっている様々な問題について関心・疑問を持ち、自分の問題として捉え、自分の考えを表現できるようにする。また物事を判断する際には、特定の立場や考え方をもちて判断するのではなく、色々な立場や様々な考え方について理解して上で、広い視野からの判断ができるようにする。				
その他	オリエンテーション時の保健に関する諸注意を順守する。				

※ 1・2年次合計の履修単位数は2単位

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	教科書ページ	スタディサプリ	レポートNo 締切日
1 学期	1	国民の健康水準の向上と変化する健康課題	・健康水準の向上 ・病気の傾向と新たな健康課題	6～7		No.1 5月 25日
	2	健康の保持増進とヘルスプロモーション	・健康の考え方 ・ヘルスプロモーションの進め方	8～9		
	3	感染症の予防	・感染症の発症と流行 ・感染症予防のために	10～11		
	4	性感染症とその予防	・性感染症を予防するために ・HIV感染症とエイズ	14～15		
	5	生活習慣病の予防	・生活習慣病とは ・生活習慣病を予防するには	16～17		No.2 6月 15日
	6	食事と健康	・植物の栄養と人間の体 ・正しい食習慣と食育	18～19		
	7	健康と運動・休養・睡眠	・健康のための運動の役割 ・休養と睡眠	20～21		
	8	喫煙と健康	・なぜ喫煙が健康によくないのか ・喫煙問題と20歳未満の者への対策	26～27		No.3 7月 6日
	9	飲酒と健康	・アルコールが体に及ぼす影響 ・飲酒による健康被害を防ぐには	28～29		
	10	薬物乱用とその防止	・薬物乱用がもたらす影響 ・薬物乱用を防止するために	32～33		

科目名	教科	課程	開講学期	標準履修年次	単位数
<b>総合的な探究の時間①</b>	—	通信制	2	1	1
学習の目標	授業や神父の講話を通してカトリックの世界観と人間観に触れ、自分なりの考えを深める。				
使用教材	参考文献 ①人は何のために祈るのか（祥伝社黄金文庫） ②The Giving Tree（村上春樹訳） ③大きな木（ほんだきんいちろう訳） ④信長と安土セミナーヨ（有）東呉竹堂				
スクーリング	全10回（2学期のみ開講）		要出席（3回以上）		
レポート	全3回		すべて提出		
メディア・教材	エミリオ神父スクールアワー（2025年度）				
成績評価					
評価の観点	評価規準			おもな評価方法	
情報収集	多様で信頼性の高い情報源を吟味しながら、自分なりの解決方法をさぐり、広く考えを深めるための効果的な情報活用ができた。			レポート	
分析・考察	収集した情報を整理し、多角的な視点から課題を深く分析、他者との協働や教員からのフィードバックをもとに、自身の考えを深く探究することができた。			レポート	
表現・発信	自己評価を含めた探究活動の内容が明確に伝わるような効果的なプレゼンテーションおよびレポートを作成することができた。			レポート	
学習のポイント	設定されたテーマや社会の諸課題について、個人もしくはグループで情報収集しながら解決に向けて主体的に取り組む。				
その他	キリスト教、特にカトリックについて信仰を強制するものではないが、その世界観・人間観について関心を持ち、理解を深めること。				

学習計画および学習内容

学期	回	学習項目	学習内容	課題	レポートNo 締切日
2 学 期	1	オリエンテーション	カトリック学校で キリスト教を学ぶことについて	なし	なし
	2	キリスト教概論 ①	「祈り」について エミリオ神父講話①	人間と祈りについて 自分の考えを含めて 講話内容をまとめなさい。  参考文献：人は何のために祈るのか (祥伝社黄金文庫)	No.1  9月30日
	3		「祈り」について エミリオ神父講話②		
	4		「祈り」について エミリオ神父講話③		
	5	キリスト教概論 ②	聖堂のステンドグラスをもとに キリスト教や聖人について知る。	人・自然・神から 与えてもらっているもの について考えたことを レポートにまとめなさい。	No.2  10月21日
	6		The Giving Tree①		
	7		The Giving Tree②		
	8	キリスト教概論 ③	「聖パウロ」と「聖ペテロ」	「意図的な出会い」 と 「偶然の出会い」 について考えたことを レポートにまとめなさい。	No.3  11月20日
	9		「聖フランシスコザビエル」		
	10		「織田信長と安土城」		